

## 荒茶製造および栽培技術支援による経営の安定化

対象者 甲賀市土山町 M氏

### 【普及活動のねらい】

M氏は、就農から10年ほど父親の茶園管理を手伝われ、令和元年から本格的に本人が経営主となって茶業経営を継承されました。

しかし、自ら茶業経営を行う中で、栽培管理や荒茶製造での技術不足の一面もあって、令和2年度には病害虫の多発や製茶品質の低下により経営への影響がみられました。

そこで、茶業経営の安定化を図るため、病害虫の発生に合わせた防除方法や荒茶製造の工程管理などの基礎的な栽培・製造技術の習得を支援しました。

### 【普及活動の内容】

#### 荒茶製造技術の習得支援

荒茶製造は、茶園で丹精込めて育てた茶葉を荒茶に加工して販売するための大変重要な作業です。製造された荒茶の品質は販売価格に大きく影響し茶業経営を左右します。そこで、農業技術振興センター茶業指導所主催の一番茶製造研修会への参加に加え、M氏の茶工場で製茶機械の操作を実演指導するなどして、一定品質で荒茶を製造できるよう、製茶工程の管理についての知識と技術の習得を支援しました。



一番茶製造研修会における  
荒茶製造技術の指導

#### 栽培管理技術の習得支援

M氏が管理されている茶園ではクワシロカイガラムシの発生が多く、吸汁害による収量低下がみられていました。クワシロカイガラムシは、殻に覆われているため、幼虫が殻からふ化した時期が防除適期となります。M氏とともに定期的にふ化状況を観察し、防除適期判断法や防除法について指導しました。その他、夏秋期に多発する病害虫を中心に、M氏と発生状況を確認しながら、農薬の選定や防除法についても指導しました。



茶園の枝条管理の指導

また、茶栽培では茶芽の整枝など、枝条管理が茶樹の生育に大きく影響します。枝条管理が適期に適切な位置で行われるよう、資料等を用いて技術の習得を図りました。

### 【普及活動の成果】

荒茶製造については学ばれたことを実践され、一番茶、二番茶ともに製茶品質が安定し、生産した荒茶は全て販売ができました。また、クワシロカイガラムシを始めとした病害虫防除についても適期の実施により、昨年度に比べ病害虫被害が抑えられました。その結果、今年度の栽培管理の集大成となる秋芽の生育は旺盛で、来年度の一番茶の収量、品質も期待できます。今後も引き続き経営の安定化に向けた支援を実施していきます。